

軍參謀長注意事項

昭和十二年十月二十五日

0316

軍參謀長注意事項

軍司令官ノ命ニ依リ軍ノ作戰上必要ナル若干事項ニ関シ

左ニ注意ヲ述フ

ヨク諸隊ニ徹底セシメラレタシ

一、軍紀ノ嚴守ニ就テ

軍ノ雄大且困難ナル任務ヲ達成セシカ爲ニハ特ニ軍紀

ヲ嚴正ニ保持スルコト肝要ナリ、各級指揮官ハ自ラ其

ノ範ヲ示スト共ニ嚴ニ部下ヲ戒メ皇軍ノ威信ヲ中外ニ

宣揚スルヲ要ス

之カ爲賞罰ヲ明確ナラシムルコト特ニ肝要ナリ、抗命

上官暴行等苟モ軍ノ統率上害毒ヲ及ス件ニ関シテハ些

モ假借スルコトナク断乎トシテ處断スルヲ要ス

二、彈藥ノ節約ニ就テ

北支及上海方面ノ戰鬪ニ就テ看ルニ歩砲各種彈藥ノ亂

費甚タシキモノアリ之殆ント自信ナキ亂射ト夜間恐怖

心ニ依ル盲射ナリ之カ爲重要ナル時期ニ彈藥ノ缺乏ヲ
 來シ爲ニ戰鬪力ヲ減殺シ又ハ不覺ヲ取リシ例尠カラズ
 蓋シ精銳ニシテ自信アル軍隊ハ亂射盲射ヲ行フモノニ
 アラス、恐怖心ニ捉ハレ自信ナキ軍隊程亂射盲射ヲ
 行フヲ常トスルモノナルコトヲ銘心スルヲ要ス
 素質劣等ナル支那軍如キニ對シテハ精銳ナル皇軍ハ寸
 分ナル確信ヲ以テ至近距離ニ於テ一彈必ス一敵ヲ斃サ
 スンハ射撃セサルノ上義ヲ堅持スルヲ要ス
 本件ニ関シテハ軍ノ全作戰期間各級指揮官ハ嚴ニ部下
 ヲ戒メラレタシ
 三、發煙筒ノ利用ニ就テ
 發煙筒ハ利用價值極メテ大ナルモ其補給十分ナラザル
 ヲ以テ特ニ必要ナル場合最モ有効ニ使用スル如ク注意
 セラレタシ
 四、綠筒ノ利用ニ就テ
 綠筒ハ毒瓦斯ニヤラス、各隊ハ必要ニ應ジ最モ有効ニ使
 用スヘシ、然レトモ之亦其補給十分ナラザルヲ以テ特

必要大ナル場合ニ於テノミ使用スルノ着意肝要ナリ、
尚軍ニ於テモ防毒面ヲ有セサル部隊アルヲ以テ此等友
軍ニ危害ヲ與ヘサルノ注意ヲ必要トス

五

民船ノ拿捕ニ就テ

軍ノ作戦ニ於テハ水路ノ利用ハ極メテ重要ニシテ軍ノ
前進後方補給等ニ水路ヲヨク利用シ得ルト否トハ實ニ
軍ノ作戦ノ成否ニ関スト謂フモ過言ニアラス

之カ為多クノ民船ヲ拿捕シ軍ノ用ニ供スルコト極メテ
肝要ナリ、各部隊ハ其向フ方面ニ於テ苟モ民船ヲ發見
セハ勉メテ之ヲ拿捕シ軍ノ用ニ供スルコトニ勉メラレ
タシ

六

家屋ノ焼却ニ就テ

家屋村落ハ敵カ之ヲ占據シアリテ之ヲ攻撃スル為戦術
上特ニ必要アル場合ノ外ハ成ルヘク之ヲ焼却セサルヲ
要ス

之時將ニ寒冷季ニ入ラントスルニ際シ軍ノ休養及衛生
上家屋村落ハ極メテ其利用價値大ナルヲ以テナリ、

上海方面ノ戰場ニ於テハ殆ト全部家屋ヲ燒却セシ爲軍
ノ後方ニ於ケル病院設備宿營等ニ利用スヘキ家屋殆ト
皆無ニテ甚シク不利ヲ招キツツアリ

七

支那住民ニ對スル注意

北支殊ニ上海方面ノ戰場ニ於テハ一般ノ支那住民ハ老
人女子供ト難モ敵ノ間諜ヲ勤メ或ハ日本軍ノ襲撃セシメ或ハ
ニ知ラシメ或ハ敵ヲ誘導シテ日本軍ヲ襲撃セシメ或ハ
日本軍ノ單獨兵ニ危害ヲ加フル等寔ニ油断ナリ難キ實
例多キヲ以テ特ニ注意ヲ必要トス殊ニ後方部隊ニ於テ
然リトス斯ノ如キ行爲ヲ認メシ場合ニ於テハ些モ假借
スルコトナク断乎タル處置ヲ執ルヘシ

八

小人数ノ兵ノ行動ニ関スル注意

小人数殊ニ單獨兵力主力部隊ト離レテ行動スル場合支
那軍又ハ便衣隊等ノ爲危害ヲ受ケタル例尠カラズ
主力部隊ニ後レタル自動車數輛カ襲撃セラレタル例ハ
ハ本隊ニ後レタル落伍兵數名カ襲撃セラレタル例等有リ指
揮官ニ於テ注意ヲ要ス

九、通信連絡ニ就テ

1、支那飛行機ニ對スル第一線ノ標示ハ之ヲ明確ニ現示スル如ク勵行スルヲ要ス。特ニ海軍飛行機ニ對シ行フ場合ニ於テ然リトス。

上海方面ノ現況ニ鑑ミルニ第一線部隊ノ戰線標示ハ其實施頗ル不良ニシテ爲ニ海軍機ニシテ被我ノ識別ヲ誤

リ友軍ヲ暴撃セシ實例多クアリ之カ爲空地連絡規定ニ特ニ表示幕ノ幅ヲ大ナラシムル如ク規定シテ了リ之カ實

施ノ勵行ヲ要望ス。

2、海軍無線班及海軍航空連絡將校トノ連繫ハ特ニ緊密ナ

ラシムルト共ニ之ガ掩護及給養ニ關シ盡カスルヲ要ス。今次海軍側ハ進ニテ第一線兵團ニ對シ連絡スヘキ海軍

無線班及對空無線連絡將校ヲ派遣セラルコトナリ、

此等ヲ派遣セラレシ司令部ハ本部ハ之ト密ニ連絡シ

其ノ派遣ノ目的ヲ達成スルト共ニ一面海軍側ノ好意ニ

對シ之カ掩護及給養上遺憾ナカシムルヲ要ス。

3、陸海軍間ノ無線通信ニハ陸海軍協同作戰用暗號書(表)

及陸海軍(艦)暗號書ヲ使用スルヲ要ス
 陸軍指揮官ヨリ海軍無線通信系ニヨリ海軍指揮官ニ對
 シ通信スル場合ニ於テハ陸海軍協同作戰用暗號書(表)
 及陸海軍(艦)暗號書ヲ使用スルヲ要ス上海方面ニ於テ
 ハ陸軍部隊ニ於テ之ヲ使用セズ爲ニ海軍側ハ頗ル不使
 ヲ感シツ、アル現況ナリ速ニ本書ノ使用ニ慣熟シ以テ
 其ノ使用ヲ確實ナラシムルヲ要ス
 十、機秘密ノ保持ニ就テ
 今次事變ニ於テ不注意ノ爲重要ナル機秘密書類ヲ敵
 奪取セラレタルニ例アリ最ニ注意ヲ要ス特ニ行動間ニ
 於ケル監視警戒ノ處置ニ遺漏ナキヲ要ス大行李ニ積載
 スル場合機秘密書類ノ率ニハ特ニ明確ナル標識ヲ附シ
 監視警戒ニ任スル者ニ之ヲ明示シ萬一ノ場合ニ於テ
 絶對ニ敵手ニ委セサルノ注意肝要ナリ
 敵地ニ深く行動スル部隊ニ於テ特ニ注意ヲ必要トス
 又幹部及兵、不注意ナル私情ニヨリ重大ナル機秘密ヲ漏
 洩スル事アリルニ注意セラルベシ

衛生ニ関スル件

病氣ノ爲戦闘力ヲ減殺スルコト甚タレキハ戦場ノ常ナ
 ルヲ以テ各級幹部ハ特ニ部下ヲ戒メ病氣ハ豫防ニ注意
 アリタシ
 軍ヲ作戰地域ハ有名ナル「イヌバ」赤痢ノ發生地ニシテ
 四季ヲ通シ終息スルコトナシ而シテ赤痢ノ予防注射ハ
 「イヌバ」赤痢ニハ無効ナルヲ以テ之ヲ予防ニ特ニ注意
 シ要ス之カ爲生物特ニ生水ノ飲用ヲ嚴禁セシメタシ
 又上海方面ノ軍ニ於テ九月初旬ヨリ突発シ多数ノ罹
 病者ヲ出シ軍ノ戦闘力ヲ著ク減殺セシメ其ノ原因ハ
 敵ノ細菌撒布ニ依ル、疑濃厚ナリ、支那軍ノ命令ヲ奪
 取セルトコロ其ノ中ニ井戸水ヲ飲用スルコトノ指
 示アリ即チ敵カ井戸ニ細菌ヲ投セシモノト察セラルル故
 ニ假令井戸水ト雖生ノ儘飲用スヘカラズ濾水器ニハ石
 井式ト岡崎式トニ種類アリ岡崎式ハ細菌ヲ除去スルノ
 効果ナキヲ以テ更ニ煮沸ヲ必要トス
 石井式ハ完全ニ細菌ヲ除去スルヲ以テ石井式ニ依リ瘡

セル生水ハ其ノ儘飲用スルモ差支ヘナレ
瀘水器ノ使用ニ就テハ諸隊ハ特ニ之ヲ重要視シ特定ノ
人員ヲ配屬シテ之カ使用及給水ニ任セレハルヲ要ス又
瀘水器ノ位置ニハ適當ナル標示ヲナシ直チニ発見シ得
ル如クナレアルコト必要ナリ

二

人員ノ補充ニ就テ

死傷者ヲ生シタル後初メテ其補充ヲ處置スル如キコト

ニテハ絶ヘス軍ノ戦力ヲ完全ニ充實シテ迅速果敢ナル

作戦ヲ遂行スルコト難シ依テ補充令ニ定メラレタル所

ニ從ヒ損傷ヲ予期シテ補充員(幹部共)ヲ豫メ戰場ニ招致

シ所要ノ訓練ヲ行ヒ缺員ヲ生スルヤ直チニ補充ヲ行フ

ノ着意ヲ肝要トス

三

報告通報ニ関スル件

敵情我カ軍ノ状態彈藥消耗ノ概況我軍ノ損害數敵ニ其

ニシテ打擊ノ數量等ハ勉メテ具體的ニ機ヲ失スルコトナ

ク(少クモ日々)報告セラレ度

其 報告提出先ニ関スル注意

軍隷下部隊カ軍ヲ飛ヒ越ヘテ直接中央部等ニ報告ヲ出
セシ例アリ斯ル如キ事ナキ様注意セラレ度

十五

鹵獲兵器ハ成ルヘク有利ニ我軍ニ於テ利用ノ途ヲ講ス
ルコト必要ナルヲ以テ諸隊ハ敵ノ兵器彈藥器杖等ヲ鹵
獲セハ散逸ヲ防止シ軍ノ利用ニ供スルノ著意ヲ必要ト
ス

然レトモ之カ爲果敢ナル作戦行動ヲ阻害スルコトアル
ヘカラス

十六

宣傳材料ノ取得ニ就テ
我カ軍カ人道的ニ支那軍カ非人道的ナル實例ヲ成
ルヘク多ク寫真ニ依リ取得シ速カニ軍ニ提出セラレ度

軍參謀長ノ幕僚ニ對スル注意事項

昭和十二年十月十九日
於佐世保

動員以來諸官ノ努力ニヨリ軍幕僚部ノ業務全ク理想的

ニ進歩シアルハ寔ニ欣快ニ堪ヘサル處ナリ

今ヤ將ニ戰地ニ向ハントスルニ際シ再ヒ茲ニ軍幕僚トシテ注意スヘキ若干事項ニ就キ述フルトコロアラントス

蓋シ今更下ラ軍ニ賦課セラレタル任務ノ重大性ヲ通感スルト共ニ軍カ克ク此ノ重大ナル任務ヲ果シ得ルヤ否ヤハ一ニ懸リテ軍幕僚勤勞ノ適否ニ関スルモト信スレハナリ

一人ノ和ニ就テ

幕僚ノ勤勞ハ人ノ和ヲ以テ根基トナスコトニ就テハ望裏ニ塵調セル處ニミテ爾後諸官ハ克ク其意ヲ体シ渾然一體ノ實ヲ擧ゲケツ、アルヲ認ムルハ予ノ最ニ滿足スル處ナリ

0326

而シテ兵馬倥傯ノ際心身疲勞シ加フルニ情況困難ニ陷リシ如キ
場合ニテモ向且所謂難局打開轉禍爲福ノ最良方策ハ實
ニ人ノ和ニアルコトヲ念ヒ幕僚ハ愈々融々和樂談笑裡ニ協力難事
ヲ處理スルノ良風ヲ馴致シ以テ軍幕僚ノ本領ヲ十分ニ發揮
セシムルコトヲ切望ス

二下集團ノ特性ニ就テ

此支那及上海方面ノ各軍ニ於テハ作戰ノ外多分ニ政治的施策ヲ
必要トスルコトハ其作戰地域ノ特殊性ニ鑑ミ已テ得サル處ナルモ當集
團ニ在リテハ之ト全然趣ヲ異ニシ絶作戰ニ徹底シ敵ニ殲滅的打
撃ヲ與ヘ戦局ヲ此一戦ニ決スルヲ以テ軍ノ使命ノ凡テヲリトス
諸官ハ深ク此点ニ稽ヘ終始作戰中心主義ノ下ニ全カク戦勝ノ
一途ニ集中スルヲ要ス

三軍幕僚ノ軍司令官隷下團隊ニ對スル言動ニ就テ

軍幕僚ノ軍司令官隷下團隊ニ對スル言動ハ極メテ謙讓ニシテ禮儀ヲ重ンシ此カキリトモ軍司令官ノ威ヲ借ルカ如キ感ヲ興ヘ延テ軍司令官ノ德ヲ傷ツルカ如キトナキ様嚴ニ注意ヲ望ム

而テ幕僚殊ニ作戰指導等ノ爲派遣セラル幕僚ハ軍司令官ノ意思ヲ代表スル場合ト單ニ自己ノ所見ヲ開陳スル場合トヲ判然區別スルコト極メテ肝要ニシテ苟モ軍司令官ノ名ニ於テ行フ場合ニ下リテハ嚴平トシテ威信ヲ失墜セサルコトヲ要ス

又軍幕僚ハ凡ソモ機会ヲ求メテ第一線ニ觸接シ彈雨ノ下ニ在ル隷下團隊將士ト其心ニ於テ一体タルヘキコト肝要ニシテ之ヲ以テ始メテ能ク全軍ノ儀表ヲリ軍威信ヲ顯揚シ得ルコトヲ銘肝スルヲ要ス

四、各課業務ノ連繫ニ就テ

各課業務ノ連繫ハ目下適切ニ實施セラレツ、アルモ戰場倥傯ノ際ニ於テハ動モスレハ連繫緊密ヲ欠クニ至ル事ナキヲ保シ難キヲ以テ特ニ

注意ヲ要ス

而シテ作戰課ハ情報及後方兩課ニ對シ作戰指導ニ基ク必要事項ヲ機ヲ失セス通報シ又情報及後方兩課ハ積極的ニ作戰課ニ連絡シ作戰指導ニ必要ナル資料ヲ提供スルト共ニ適時必要ナル意見ヲ述ヘ以テ克ク戰機ニ投シ軍ノ果敢ナル作戰ヲ成功セシム又軍司令官及本職ハ是達スル事項ハ所要ニ應シ予々各課ニ於テ協定ヲ遂クル如ク注意レ特ニ作戰關係事項ハ事ノ性質ニ應シ事前又事後ニ於テ第一課ニ連絡ヲ失セサル如ク注意ヲ望ム

0329

五 中央部等ヨリ視察者ニ對スル注意

軍ノ作戦間中央部等ヨリ視察者ヲ派遣セラル、コトアリ其目的ハ兵馬倥傯ノ際報告等ニテ盡シ得サル軍ノ實情ヲ悉ク認識シ中央部トシテ適時適切ナル處置ヲ振ニシカ爲メノ辱ニテ重要ナル意義ヲ有スルモノナルヲ以テ軍幕僚ハ好意ヲ以テ之ヲ迎へ視察者ニ對シ爲シ得ル限リノ便宜ヲ與へ以テ其目的ヲ充分達成セシムルコト肝要ナリ
協力スル船舶輸送司令部關係者及海軍ノ派遣者ニ對シテモ亦同シ

0330

丁集團長

護衛艦隊指揮官間ノ協定老ノ通定ム

昭和十二年十月二十五日

於足柄

丁集團長

柳川平助

護衛艦隊指揮官

豊田副武

0331

一 上陸點及其偵察

(1) 上陸地區及其稱呼等左ノ如シ

名	稱	上	陸	地	區	主要上陸兵團																	
甲	地區	北	沙	金	山	嘴	鎮	間	第	十	師	團	美	力									
乙	地區	陝	宅	大	平	橋	東	方	約	三	村	無	名	部	落	施	永	橋	間	第	六	師	團
丙	地區	大	平	橋	東	方	約	三	村	無	名	部	落	施	永	橋	間	第	六	師	團	一	部

(2) 上陸點ノ偵察

各兵團ハ所要ニ應ジ幕僚・碇泊場・機関・護衛隊指揮官

ト協議、上陸機ニ依リ、且上陸點ニ對スル事前偵察ヲ実施スル

コトアリ又必要ニ應ジ兵團毎直前偵察ヲ実施ス

(3) 上陸軍ノ兵團部署、船隊区分、輸送順序及指揮官所

在左
如シ

第一輸送梯團			第二輸送梯團			輸送順序
船團	船團	船團	船團	船團	船團	區分
第一團	第二團	第三團	第一團	第二團	第三團	部隊
約十隻	約十隻	約十隻	約二隻	約二隻	約二隻	隻數
兵團部署	兵團部署	兵團部署	兵團部署	兵團部署	兵團部署	兵團部署
第一師團(一部缺)	第六師團(國境隊變)	左側支隊(第六師團一部)	軍直轄部隊	第百十四團(一部缺)	野戰曹長隊(第六師團及其他)	第六師團(輕重)
師團長	師團長	師團長	師團長	師團長	師團長	師團長
甲地區	乙地區	丙地區	乙地區	乙地區	乙地區	甲地區

0333

同	同	第一次輸送船團	第一船團	五島	X-3 日	三輸送船隊集合點及出發期日	考合地到着前護衛隊指揮官船泊輸送司令官ヨリ通報ヲ受クルモノトス	備 第一輸送梯團以降船團ノ隻數及指揮乘艦名集	梯團	第一船團	第一船團	第三
		第二船團	第二船團	八口浦					第二後備歩兵團等	第二船團	兵 站 部 隊	次
		第三船團	第三船團	五島					兵 站 部 隊	第三船團	兵 站 部 隊	輸送
										區 地		

0334

四) 泊地投錨日時 上陸開始時刻及上陸日程

一) 泊地投錨日時

二) 輸送船隊ノ泊地投錨日時ヲ又日ノ公時トシ特令ハルハ十一月五日

〇三三〇トス

三) 天候其他關係ニテ輸送船隊ノ集合點出發ヲ延期スル場合ニ

於テハ又日二〇〇迄ニ兩軍最高指揮官協議決定ス

四) 輸送船隊集合點出發後ニ於テハ特令依リ艦艇一隻ヲ

五) 五盤山東方海面ニ派遣シ現地ノ海象氣象ヲ觀測報告

セシメ上陸延期ヨ必要トスル場合ニ於テハ又日一八〇〇迄ニ兩軍

最高指揮官協議決定ス

六) 右艦艇ニ陸軍將校一名ヲ乘艦セシム

七) 上陸開始時刻

第一回上陸部隊、上陸開始時刻ヲ概ネ〇五三〇ト豫定ス各
團ハ上陸準備完了次第上陸ヲ開始ス

但シ乙丙地區ハ上陸開始ハ第六師團長之ヲ統一ス

(三)上陸日程ヲ概ネ左ノ通り豫定ス

第一次輸送梯團

約二日

第二次輸送梯團

約二日

爾餘

遂次到着順序ニ約一日

五海上護衛

船團名	護衛隊	護衛隊指揮官	護衛兵力
第一次輸送梯團	第一護衛隊	第四水雷戰隊司令官	450 (16)
第二次輸送梯團	第二護衛隊	第八戰隊司令官	250 (11)
送梯團	第三船團		1109

爾餘適宜護衛艦隊指揮官ヲ指示ス

六 牽制陽動

白鷹ヲ以テ上陸時頃鎮海方面ノ照射砲撃ヲ行フ

七 航空部隊ノ使用

(一) 護衛艦隊ニテ直接使用スル航空兵力

第三航空戦隊 約四十八機

第二聯合航空隊(一部缺)約四十二機

神川丸 衣笠丸 約十六機

(二) 護衛艦隊ニテ合擔スル區域

蘇我良閔行 松江 嘉興 海軍

右以外ノ區域ハ支那方面艦隊航空兵力大部ヲ以テ敵航空兵力ノ掃蕩敵兵集中阻止敵後方連絡線ノ破壊等ニ依リ
護衛艦隊ニ協力ス

(三) 護衛艦隊航空兵力使用方針

(四) 各部隊ノ任務分擔

部隊名	主要任務
第二航空戰隊	北方ヨリスル敵兵力ノ移動集中阻止
第三聯合航空隊	上陸掩護、陸戰協力
神川丸 衣笠丸	東西兩方ヨリスル敵兵力ノ移動集中阻止
足柄艦載機	偵察、攻撃及連絡（軍司令部所要ニ供ス）

(五) 空軍攻撃ハ黎明時開始スルヲ例トス

(八) 第三聯合航空隊より連絡將校十二名(電信員帶同)ヲ
上陸軍ニ派遣ス

(二) 細項ニ関シテハ別ニ協定ス

八 泊地、泊地進入要領及碇泊隊形

(一) 泊地及避泊地ハ別圖ノ通

(三) 錨地附近、海象ニ鑑ミ輸送船隊ノ投錨時機ハ轉流時又

ハ落潮初期ニ選定スルヲ例トス

(三) 入泊、際目標トシテ唐腦山、許山、王盤山ニ各白燈一箇ヲ設置ス

九 上陸戦闘、上陸掩護及揚陸作業援助

(一) 上陸戦闘

奇襲

(二) 上陸掩護射撃

(一) 上陸點に向テ敵後方兵團ノ前進阻止

(四) 永浦東方地區ニ於ケル防備火砲ノ制壓

(ハ) 金山衛城附近ノ制壓

(ニ) 前諸項外各兵團指揮官ト護衛隊指揮官トノ協定ニ依ル

(三) 上陸掩護射撃ノ分擔

(イ) 第一護衛隊

金山(島)

勝山連結^線以東

(ロ) 第二護衛隊

金山(島)

勝山連結^線以西

(四) 掩護射撃ハ敵ノ照射砲撃アルカ又ハ陸軍側ノ要求アル場合外黎明後開始スルヲ例トス

(五) 揚陸作業援助

第一港務部舟艇ヲ以テ泊地外側ニ於ケル輸送船及舟艇ノ救助ニ協力ス

一〇 通信連絡

別ニ協定スル所ニ依ル

二 上陸後ニ於ケル輸送船ノ行動

輸送船ハ揚陸完了後成ルベク速ニ各個歸還セシムルヲ例トスルモ
當時ノ狀況ニ依リ軍司令官ト護衛艦隊指揮官ト協議ノ上編
隊歸還セシムルコトアリ

一 情報ノ交換

- (一) 情報ハ相互速ニ交換スルコトニ務ム
 - (二) 海軍ハ氣象ニ関スル情報ヲ蒐集ス
 - (三) 空中偵察ニ関シテハ別ニ協定スル所ニ依ル
- 機密保持

事前ノ準備並ニ諸偵察ノ実施ニ方リテハ特ニ機密保持及企圖
ノ秘匿ニ努カム

二 軍司令官ノ所在

- (一) 軍司令官ハ軍艦名取ニ乘艦ス
又小數幕僚ヲ旗艦足柄ニ乘艦セシムルコトアリ
- (二) 軍司令官ハ金山衛城附近ニ軍通信所開設ニ伴ヒ可成速ニ上
陸ス其ノ時機ハ概ネ^{五-3}日ト豫定ス

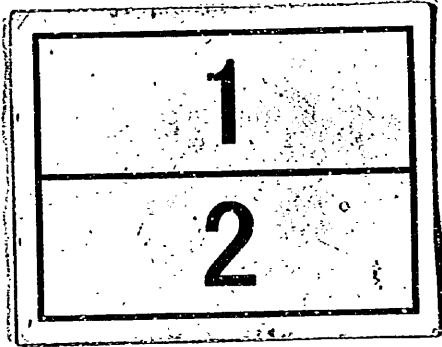
三 地點ノ標示

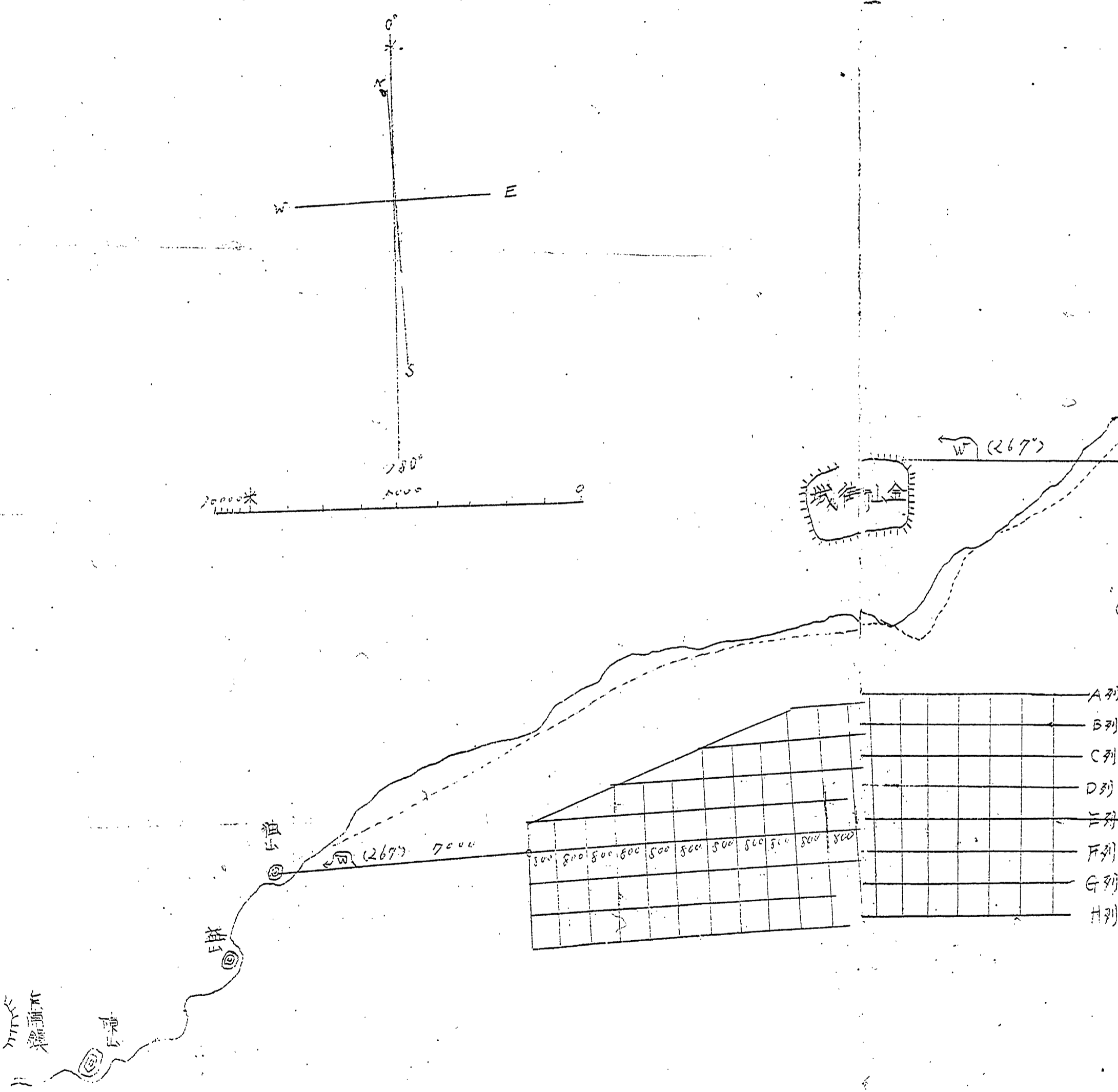
海陸協同作戰地點圖（軍令部極秘第五十九號ノC₁及C₂）
該圖ノ範圍外陸上地點ノ指示ハ總テ十萬分ノ陸圖ニ依ル
地名ヲ用ユ

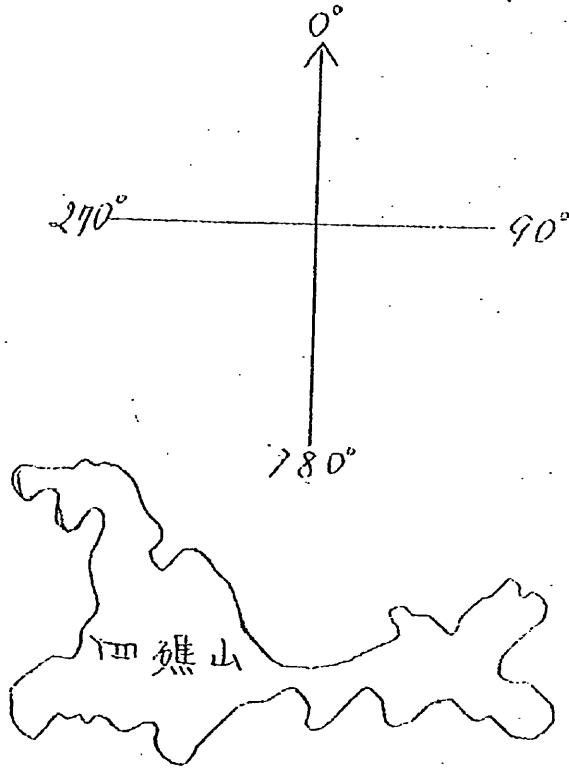
(終)

0342

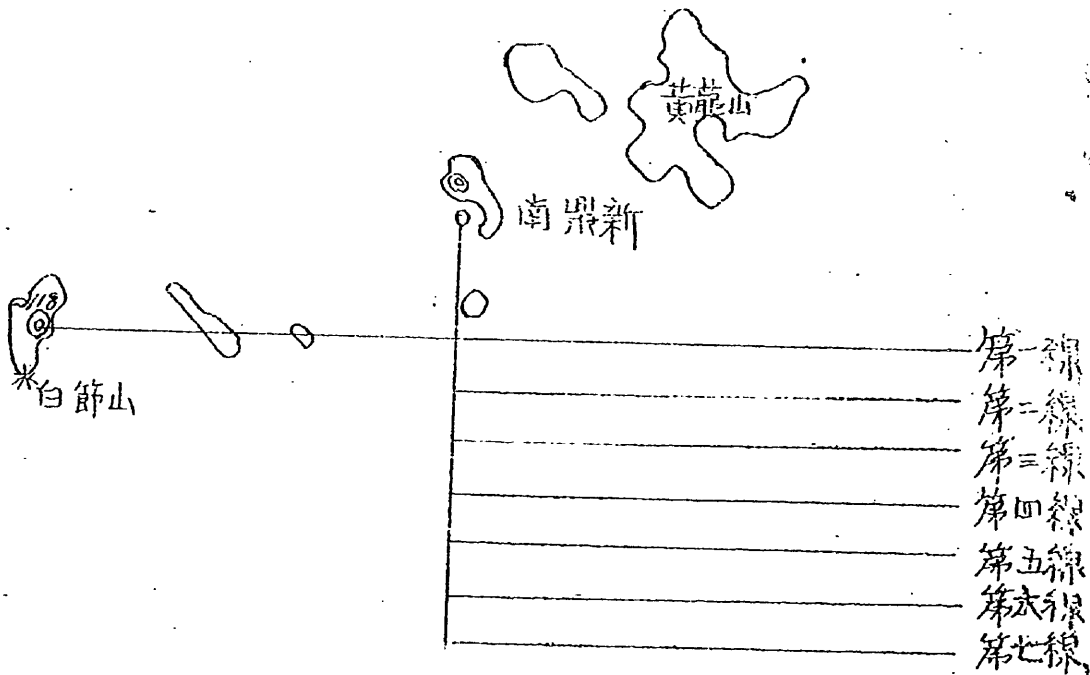
分割撮影ターゲット

分割した 部分の 撮影順序	
分割撮影 した理由	A3版以上のため
文書等名	輸送船隊泊地(共同作戦地点図と同尺度)
上記のとおり分割撮影したことを証明する。	





輸送船隊
 (海軍海隊因避泊地
 第四號
 同尺度)



0345

丁集作命甲號外

丁集團命令

十月二十七日午後
於佐世係

一第一船舶輸送司令部命令ニ依ル甲(乙)(丙)揚陸作業隊ハ自
今更々第十八師團長(第六師團長)(歩兵第三十五旅團長)
ノ指揮下ニ入ルヘシ「入ラシム」

丁集團司令官

柳川平一助

下達法

印刷配布

配布区分

甲乙丙各揚陸作業隊、第十八師團、
第六師團、歩兵第三十五旅團

上陸日変更ニ関スル経緯

一 東京ニ於ケル研究並陸海軍ノ下協議ノ結果軍ノ上陸決行日ヲ十月二日ト定メタリ

然ルニ十月三日佐古保ニ派遣セラレタル參謀本部第三部(船舶)部員及船舶輸送司令部々員ハ主トシテ船舶關係上十月三日決行ノ困難ナルコトヲ強調シ十月七日又ハ八月三日延期センコトヲ要望セリ、軍トシテハ一カ度更ハ上海方面ノ戦況ト上陸^(時刻)延ノ結果晝間上陸ヲ行ハサルヘカラサルニ至ルノ懼大ナル(杭州灣ノ特種潮流ノ干係上上陸決行ハ十月三十日最適トシ其後日ヲ延スルニ從ヒ上陸時刻屢レ四五日項以後ニ至レハ第一回上陸モ晝間上陸トナルノ懼大ナル狀況ニアリタリ)トノ爲上陸日ノ

延期ハ忍ビ難キ處ナルモ二日決行セハ第六師團ヲ第一回上陸
兵團トシテ使用シ得サルニ至リ軍ノ作戰指導要領ノ根本ヲ覆
スコトナルヲ以テ已ムヲ得ス最小限ノ延期ヲナスコト、レ十月
二十四二十五兩日ニ於ケル陸海軍協定ニ於テ十月五日ト定メ
タリ

二右 上陸日変更ノ件ヲ參謀本部ニ報告セル處十月二十七日夜
參謀本部第三課長(作戰編制動員課長)ヨリ軍第一
課長宛左記電報アリ

「西村ノ通報ニ依レハ上陸日延期ノ理由ハ船舶関係方
面ニ實行上ノ難色アルヲ第一トシ併セテ第六師
團ノ來着ヲ待タントスルニアリレ由ナルカ同少佐飯京後
鈴木中佐ト談合セシ結果ニ依テ船舶関係ノ立場

ヨリハ鐵道輸送ノ事情ヨリ一旦延期ト訓練ノ必要
トヲ希望セル次第ニシテ其以外ニハ貴軍カ東京
ニ於テ策完セラレタル予定計畫ヲ甚タレク変更
セサルヘカラサル事情ハ船舶関係ヨリ發生セルニ非スト思
ハル又貴官ノ懸念セラレアルカ如キ船舶方面ノ何算
カノ艱路等ハ決シテ無レトノ事ナリ
鈴木ハ船舶ノ立場ヨリモ寧ロ總作戰的ニニテ師
團同時上陸ヲ可トストノ意見ヲ陳述シタルノミトノ
コトナリ

船舶関係ノ事情ヨリレテ軍ノ上陸ヲ五日延期スル必
要ハ存セサルモノ、如ク考ハラルヲ以テ軍ニ於テハ後ノ事
情ニ依リ五日決定セラレタルモノト見解レテ宜敷ヤ上司ニ

0349

報告ノ必要モアリ為念

茲ニ於テ丁集團參謀長ヨリ參謀次長宛及第一課長藤
本大佐ヨリ參謀本部第三課長宛左記返電ヲ發ス

左記

0350

丁集參一第四號

極 秘 親 展

十月二十八日 丁集團參謀長

參謀次長

丁集團ノ上陸日延期ノ理由ニ就キ參謀本部ニ於テ疑アル
如ク察セラルモ右ハ主トシテ船舶關係ヨリ發生セルモノニシテ
決シテ第六師團主カノ未着ヲ待タントセルモノニ非ス本件
ノ詳細ニ関シテハ藤本大佐ヨリ參謀本部第三課長ヘ電
報セシニ就キ承知アリ度

丁集參一第五號

0351

極秘親展

十月二十八日

藤本大佐

参謀本部第三課長宛

返
上陸日延期ノ理由ハ主トシテ船舶関係ヨリ發生セルモノニシ
テ決シテ第六師團主カノ未着ヲ待タントセルモノニ非ス詳細
左ノ如シ

軍ハ第六師團ノ鐵道輸送屢延スルモ歩兵一旅團工兵
及衛生隊主カカニ十七日迄ニ塘沽ニ到着シ得レハ二日ノ上
陸ヲ決行セトシ所要ノ處置ヲ講シテ東京ヲ出發セシ
コトハ御承知ノ通りナリ然ルニ佐世保到着後新ナル事
態トシテ左ノ二件發生セリ

一、第六師團鐵道輸送順序ニ於テ歩兵ノ中間ニ砲兵カ入

0352

リタル爲結局歩兵一旅團ノ塘坫到着カ一日遲延ス
ル結果トナリレコト

二東京ニテハ第六師團揚陸ノ爲發動艇ハ既ニ船ニ積ミ
込マレタルモノト諒解シレアリレトコト事實ハ船ト分
離シハ口浦ニ集結セラレアリ

之カ爲第六師團ハ同地ニ寄港スルヲ要シ之カ爲一日ヲ更ニ
發動艇積込ミノタノ一日計二日ヲ要スルニ至リタルコト

以上ノ結果結局合計三日ノ遲延ヲ要スルニ至リタルモノニシテ
只發動艇ヲ別途運搬セハ一日ノ延期ニテ済ム譯ナルモ之ハ
種々研究ノ結果實行上ノ難^色アリ已ハナク涙ヲノンテ五日ニ
延期シタル次第ナリ

鈴木中佐及船舶輸送司令部関係者ハ惹リニ第六師團

0353

主カノ到着ヲ待チテ七日若クハ八日上陸スヘキコトヲ軍ニ要望
 シ上陸開始ハ状況上毫モ急ク必要ナキコトヲ力説セリ
 コトハ中央部責任者トシテ甚タ穩當ナラサル言辭ト
 認メタルモ軍ニ聞キ流シ置キアル迄ニテ鈴木中佐ノ言ニテ
 軍カ決心ヲ變更シ第六師團主カヲ待タントセルモノハ断シテ
 之レ兵軍トシテ上述ノ如ク主トシテ船舶ノ關係ヨリ軍唯一ノ
 現役師團カ全ク無準備ニテ而モ萬一揚陸材料ト分離シテ
 上陸点ニ向ラカ如キ結果ニ立チ到ルヲ甚タ憂慮セル次第ニ
 テ此ノ点諒承アリ度
 鈴木中佐カ今更絶作戦關係ニ付進言セリト云フハ甚タ意
 外トスルトコロナリ

0354

三十月十九日參謀本部第一部長ヨリ軍參謀長宛左記電報

アリ

上海派遣軍情報七八九號電報、如ク目下ノ情况ハ當方
トシテハ一日モ速カニ貴軍ノ迫カラ予定地方面ニ發
起セント望マレキ次第ナリ、何トリ此際貴兵力ヲ
以テ目下ノ計畫ヨリモ早メテ實行考察ナキヤ

參謀次長ヨリ軍參謀長宛電報
第七八九號

上海派軍司令官ヨリ參謀總長宛左ノ通報アリ

軍ハ上海南市ヲ封鎖スル為第一師團ヲ以テ蘇
州河渡河ヲ準備中ナリ

0355

尚軍八千八百范家宅（虹橋鎮南方東部）蘇州河北岸
ヲ占領シ退却セル敵ト對岐シアリ
茲ニ於テ十月三十日軍參謀長ヨリ參謀本部第一部長ヘ尤記返
電ヲ發ス

「丁集參」第二號

丁集團參謀長發

參謀本部第一部長宛

上陸期日ヲ早ムルコトニ関スル御希望ハ十分諒察スルトコロ
ニシテ當方ニテモ慎重審議ヲ盡シタリ
結局當集派遣ノ根本目的達成ノ爲ニハ集結セル威力
ヲ神速一擧ニ使用スルヲ可トスルカ或ハ又準備ノ不充分逐

0356

次兵力使用ノ弊ニ陥ルモ上陸關係ヲ急クラ可トスルヤノ問
題トナル

右ニ関スル當方ノ見解ハ別便ニテ進達スルモ集團ノ現狀上
今日ニ於テ上陸期日ヲ早ムコトハ左記理由ニ依リ實行殆
ト不可能ナリ

一海軍トハ既ニ集團ト艦隊間トハ勿論師團ト護衛
艦隊トノ間ニ詳細ナル協定ヲ了シ海軍ハ既ニニヤ
七日上海ニ向ヒ出發シ今日協定ヲヤリ直ストハ
殆ト不可能ナリ

ニ隸下團隊ニ先般軍ノ企圖ヲ開示シ之ニ基キ諸
隊ハ目下準備中ニシテ本ニ日既ニ一部艦團ノ移動開
始セラレ軍司令部モ本日夕佐世保出發富江ヲ經テハ

0357

口浦ニ至ル予定ナリ、

三上陸ノ為作命甲一號ハ既ニ發令セリ、

之ヲ要スルニ當集團ハ既定計畫通り實行レ上陸後ノ神速果敢ナル作戦ニ依リ充分貴意ニ副ク如ク努カスル決心ナルニ付御含ミヲ乞フ

四十月三日參謀本部第一部長ヨリ軍參謀長宛左記電報アリ

「貴電第二一號敬承」

慎重ナル御考慮ヲ感謝レ御成功ヲ祈ル

茲ニ於テ上陸日變更ノ件ハ解決セリ、

0358

(昭和十二年十月三十日午後三時過キ參謀長ヨリ
參謀本部第二部長ニ送付セシモノナリ)

上海方面ノ現情勢ニ鑑ミテ集團ノ作戰指導ヲ闡スル考察

判決

軍ニ依然既定方針通りナルヘク速ニ準備ヲ充整ニ成レ
得限リ集結セル戦力ヲ神速ニ擧ニ使用スルヲ主眼トシ
十月五日上陸スルヲ画ス

理由

一今ヤ上海方面ノ戦況豫想以上急速有利ニ進展シタル
ヲ以テ之ニ策應シテ可ク集團カ急速ニ上陸ヲ決行シ松江方
面ニ迫カラ加フルコトハ上海派遣軍ノ企圖セル上海南市ヲ封鎖

ヲ著シテ容易ナラシムルコト明瞭ナルヲ以テ十分考慮スルモ考察
ナリ

然レトモ上海派遣軍方面、彼我ノ態勢ヨリ觀ルニ假令當集團カ今
急速ニ松江方面ニ進出シ得タリトスルモ敵主力軍ヲ捕捉シテシニ
一打撃ヲ與フルコトハ殆ト不可能ニシテ單ニ上海南市封鎖
ヲ急速ナラシムル程度ノ効果ヲ期待シ得ルニ過キサルヘシ
而モ本目的達成ノ如キハ今ヤ單ニ時間ノ問題ニ過キサル情況ニ立至
ルモノト謂フヘシ之カ爲テ集團カ準備不充分且齟齬ヲ生スルノ危険
ヲ冒シテ複雑ナル計畫ヲ變更シテ逐次兵力使用ノ不利ヲ忍ビテ
追上陸日ヲ一兩日速カナラシムルモキ理由トシテハ其ノ根據薄弱ナリ
況ヤテ集團ニ課セラレタル任務ハ更ニ更ニ雄大ナルモノナルニ放テオヤ
三國軍作戦ノ主決戦方面ハ今ヤ上海方面ニ移動セルコトハ

殆ト異論ナキ處ナルヘク此方面、敵主力軍ニ徹底的打撃ヲ
興フルニ非ニ六敵ノ戦争繼續意志ヲ挫折セシムコト困難ナ
ルハ明瞭ナリ從テ上海方面ノ作戰ハ今マ單ニ上海市ノ封鎖
完成ノ如キ程度ヲ以テ満足ニテテ予ヲ收メ得ヘキ情勢ニ非ズリ
而シテ上海派遣軍ノ作戰ハ上海市ノ封鎖ヲ以テ其ノ第一
期ヲ終レルニ過キスニテ更ニ第二期作戰ニ於テ右ノ大目的
達成ヲ企圖スルコト當然ナリト思惟ス
丁集團ヲ新ニ派遣セラレタル根本目的亦盡具ニ茲ニ存
スルモノト謂フヘク單ニ上海派遣軍ノ當初ノ消極的任務
ニ對シ其ノ作戰ヲ容易ナラシムル如キ小規模消極的ノ目
的ニハ萬々是レナキモノト確信ス

三、以上ノ觀察ニ基キ現下上海方面ノ情勢ヲ於テ丁集團ハ眼
前ノ情况眩惑セラル、コトナク宜シク大局ニ鑑ミ成シ得ル
限リ集結セル戦力ヲ一擧ニ使用シテ上陸スルヤ爾後神
速ナル作戰ヲ決行シ以テ上海派遣軍ト策應シ前記ノ
大目的達成ニ邁進スルコト肝要ナリ

四、以上ノ理由ニヨリ丁集團トシテハ何等既定計畫ヲ變更
スルノ必要ナク寧ロ今後ノ情勢ノ推移ヲ洞察シテ松江附
近ニ進出後既定ノ作戰方針ニ於ケルヨリモ更ニ西北方ニ重
点ヲ指向スルノ必要ヲ生スヘキコトニ関シ研究ヲ進ムルコト
肝要ナリト判断シマリ

(昭和十二年十月三十日午後三時過キ參謀長ヨリ
參謀本部第二部長ニ送付セシモノナリ)

上海方面現情勢鑑ミテ集團作戰指導關スル考察

判決

軍ハ依然既定方針通リナルヘク速ニ準備ヲ充整シ成レ
得限リ集結セル戦力ヲ神速ニ擧テ使用スルヲ主眼トシ
十月五日陸スルヲ西女ス

理由

一今ヤ上海方面戦況豫想以上急速有利ニ進展シタル
ヲ以テ之ニ策應スル可キ集團カ急速ニ上陸ヲ決行シ松江方
面ニ迫カヲ加フルコトハ上海派遺軍ノ企圖セル上海南市ヲ封鎖

ヲ著ミテ容易ナラシムルコト明瞭ナルヲ以テ十分考慮スベキ考察
ナリ

然レトモ上海遠征軍方面、彼我ノ態勢ヨリ觀ルニ假令當集團カ今
急速ニ松江方面ニ進出シ得タリトスルモ敵主力軍ヲ捕捉シテ之ニ
一大打撃ヲ與フルコトハ殆ト不可能ニテ單ニ上海南市封鎖
ヲ急速ナラシムル程度ノ効果ヲ期待シ得ルニ過ギサルヘシ
而モ本目的達成ノ如キハ今ヤ單ニ時間ノ問題ニ過ギサル精況ニ立至レ
ルモノト謂スベク之カ爲メニ集團カ準備不充分且齟齬ヲ生スルノ危険
ヲ冒シテ複雑ナル計畫ヲ變更シテ又逐次兵力使用ノ不利ヲ忍ビテ
迄上陸日ヲ一兩日速カナラシムヘキ理由トシテハ其ノ根據薄弱ナリ
況ヤ丁集團ニ課セラルタル任務ハ更ニ更ニ雄大ナルモノナルニ於テオヤ
二國軍作戰ノ主決戦方面ハ今ヤ上海方面ニ移動セルコトハ

殆ト田共論ナキ處ナルヘク此方面ノ敵主力軍ニ徹底的打撃ヲ
興フルニ非ニハ敵ノ戦争繼續意志ヲ挫折セシムコト困難ナ
ルハ明瞭ナリ從テ上海方面ノ作戰ハ今マ單ニ上海市ノ封鎖
完成ノ如キ程度ヲ以テ満足ニテ矛ヲ收メ得ヘキ情勢ニ非ルナリ
而シテ上海派遺軍ノ作戰ハ上海市ノ封鎖ヲ以テ其ノ第一
期ヲ終レルニ過キスニテ更ニ第二期作戰ニ於テ右ノ大目的
達成ヲ企圖スルコト當然ナリト思惟ス
丁集團ヲ新ニ派遣セラレタル根本目的亦實ニ茲ニ存
スルモノト謂フヘク單ニ上海派遺軍ノ當初ノ消極的任務
ニ對シ其ノ作戰ヲ容易ナクシムル如キ小規模消極的ノ目
的ニハ萬々是トナキモノト確信ス

0365

三、以上ノ觀察ニ基キ現下上海方面ノ情勢ヲ於テ丁集團ハ眼前ノ情況眩惑セララルコトナク宜シク大局ニ鑑ミ成シ得ル限リ集結セル戦力ヲ一撃ニ使用シテ上陸スルヤ爾後神速ナル作戰ヲ決行シ以テ上海派遣軍ト策應シ前述ノ大目的達成ニ邁進スルコト肝要ナリ

四、以上ノ理由ニヨリ丁集團トシテハ何等既定計畫ヲ變更スルノ必要ナク寧ロ今後ノ情勢ノ推移ヲ洞察シテ松江附近ニ進出後既定ノ作戰方針ニ於ケルヨリモ更ニ西北方ニ重点ヲ指向スルノ必要ヲ生ヌヘキコトニ関シ研究ヲ進ムルコト肝要ナリト判断シアリ

軍隊區分

第六師團

缺除部隊

輜重兵第六聯隊

配屬部隊

國崎支隊

獨立機關銃第八大隊

獨立輕裝甲車第九中隊

獨立山砲兵第二聯隊（第一大隊及聯隊段列半部欠）

獨立工兵第二聯隊

獨立工兵第三聯隊第一中隊

無線電信第四十四第廿六第五十七小隊

野戰鳩第十二小隊（二分隊欠）

第四師團架橋材料中隊

第七師團架橋材料中隊

0367

第十二師團架橋材料中隊

第十六師團第一渡河材料中隊(一小隊欠)

第十八師團

缺除部隊

步兵第三十五旅團(步兵第百十四聯隊欠)

騎兵第二十二大隊(一小隊)

野砲兵第十二聯隊第三大隊及聯隊段列三分一

工兵第十二聯隊第二中隊(一小隊)

輜重兵第十二聯隊

衛生隊三分一

配屬部隊

獨立山砲兵第三聯隊第二大隊(第六中隊欠)及聯隊段列半部

無線電信第四十七聯隊

野戰鳩第十一小隊(一分隊)

右側支隊

長 步兵第三十五旅團長 手塚少將

步兵第三十五旅團(步兵第百十四聯隊欠)

騎兵第三十二大隊(一小隊)

野砲兵第十二聯隊第三大隊及聯隊段列三分一

獨立山砲兵第二聯隊第六中隊

工兵第十二聯隊第二中隊(二小隊)

無線電信第五十一小隊

野戰塙第一小隊(一分隊)

第十六師團第一渡河材料中隊(一小隊)

第十八師團衛兵隊三分一

第百十四師團

缺除部隊

輜重兵第百十四聯隊

配屬部隊

野戰鳩第十二小隊一分隊

第一後備步兵團

長 第一後備步兵團長

藤井少將

第一後備步兵團司令部

近衛師團後備步兵第一乃至第四大隊

第三師團後備步兵第一大隊

後備山砲兵第一中隊

第二後備步兵團

長 第二後備步兵團長

牧 少將

第二後備步兵團司令部

第二師團後備步兵第一乃至第四大隊

後備山砲兵第二中隊

軍直轄部隊

野戰重砲兵第六旅團(輜重隊欠)

第一防空隊

軍通信隊

軍通信隊本部

第一戰戰高射砲兵司令部

第三師團第二十五乃至第三十八野戰高射砲隊

第十六師團第一乃至第四野戰高射砲隊

近衛師團第一第二野戰照空隊

第三師團第三野戰照空隊

野戰電信第一第八第九第三十三中隊

無線電信第四十五第四十六第四十八第四十九小隊

第二固定無線電信隊

野戰鳩第十一小隊(三分隊欠)

兵站電信第一中隊

第十一師團第一第二架橋材料中隊

野戰瓦斯第六中隊

野戰瓦斯第八小隊

0371

第一野戰化學實驗部

0372

丁集作命甲第一號

丁集團命令

十月三十日午前六時
於 佐世保

一 狀況別冊情報記録第一號ノ如シ

海軍航空隊、協同要領別冊第五ノ如シ

二 集團ハ金山衛城附近ニ上陸シ速ニ松江西南方地區ニ

進出セントス

三 各兵團ハ別冊上陸計畫ニ據リ上陸スヘシ

四 第六師團ハ上陸後一部ヲ以テ金山衛城ヲ奪取シ

主力ハ神速ニ南庫濱附近ヨリ史家村ニ旦ル線ニ進

出シ集團主力ヲ前進ヲ容易ナラシムヘシ

0373

- 五 第十八師團ハ上陸後 金山衛城—柳港鎮水路
 (谷ヲ入) 以東ノ地區ヲ 金家濱附近ニ急進シ爾後
 速ニ南庫北側地區ニ向フ轉進ヲ準備スヘシ
 別ニ小部隊ヲ以テ漕涇鎮及亭林鎮ヲ占領シ
 集團ノ右側ヲ掩護スヘシ
- 六 右側支隊ハ上陸後小部隊ヲ以テ新倉鎮及施家
 橋附近ヲ占領シテ集團ノ右側ヲ掩護シ主力ハ速ニ楓
 涇鎮東側地區ニ於テ 交通路及毛家橋附近ノ
 水路ヲ遮断スヘシ
- 七 第一百十四師團ハ上陸後速ニ金山附近ヲ經テ

0374

洙橋附近黃浦江北岸地區進歩スヘシ

八第一第二後備步兵團及第一防空隊ハ別冊後方

及地上防空計畫ニ基キ行動スヘシ

九野戰重砲兵第六旅團ハ上陸後金山衛城附近ニ

兵力ヲ集結シ爾後ノ前進ヲ準備スヘシ

十集團通信隊ハ別冊通信計畫ニ基キ行動スヘシ

十一爾餘ノ集團直轄部隊ハ上陸後朱家宅附近

ニ兵力ヲ集結シ爾後ノ前進ヲ準備スヘシ

十二集團兵站部長ハ各師團及野戰重砲兵旅

團ノ輜重隊ヲ指揮シ直接補給ニ任スヘシ

十二、予、軍艦名取ニ坐乗ス

集團司令官 柳川平助

下達法

十月三十日 印刷 命令ヲ 集合 點ニ於テ 交付ス

0376